

# 2021年度 環境経営レポート

〈対象期間：2021年10月 ～ 2022年9月〉



株式会社 タムラ

2022年10月31日 発行

# 1. 組織の概要

- (1) 名称及び代表者名  
 株式会社 タムラ  
 代表取締役 田村 清孝

- (2) 事業所の所在地
- |                   |                       |
|-------------------|-----------------------|
| 本 社（登記住所）         | 千葉県鴨川市滑谷777番地         |
| マツダオートザム鴨川・修理部・総務 | 千葉県鴨川市滑谷68番地1         |
| マツダオートザム館山        | 千葉県館山市高井800番地1        |
| 重機土木部・重機修理部・钣金塗装部 | 千葉県鴨川市滑谷690番地2        |
| 自動車リサイクル部         | 千葉県鴨川市坂東370番地2        |
| 石油部               | 千葉県鴨川市滑谷763番地1, 769番地 |

- (3) 設立年・事業規模
- 設立年 1963年10月 1日  
 資本金 1,000万円  
 事業年度 10月～9月  
 売上総額 1,140 百万円 2021/10～2022/09

総称	部署および事業所	従業員数	延床面積	売上高 (百万円)
① MAZ 鴨川	マツダオートザム鴨川	4名	290.6㎡	305
	修理部	11名	400.9㎡	
	钣金塗装部	3名	238.9㎡	
② MAZ 館山	マツダオートザム館山	7名	419.0㎡	159
③ 重機土木事業部	重機・土木部	19名	3471.9㎡	532
	重機修理部	2名		
④ リサイクル事業部	自動車リサイクル部	5名	3,850.5㎡	68
⑤ 石油事業部	石油部	4名	626.1㎡	76

- (4) 事業内容
- ① マツダオートザム鴨川、② マツダオートザム館山  
 自動車車検整備、一般修理、自動車钣金塗装、新車・中古車販売、保険代理店業務
  - ③ 重機土木事業部  
 建設機械リース、建設機械点検修理、土木工事
  - ④ リサイクル事業部  
 自動車解体業及び自動車解体部品販売、産業廃棄物収集運搬
  - ⑤ 石油事業部  
 石油類販売、レンタカー

- (5) 事業詳細
- ③ 重機土木事業部
- 建設業許可 千葉県知事許可（般-2）第34135号  
 建設業の種類 土木工事業、とび・土木工事業  
 有効年月日 令和7年7月30日
- 業務実績（2021年度）
- |                      |       |
|----------------------|-------|
| 浄化槽設備工事およびシートパイル工事   | 45件   |
| シートパイル打設工事           | 40件   |
| クレーンおよびコンクリートポンプ車リース | 1489件 |

④ リサイクル事業部

1) 自動車リサイクル法にもとづく許可の内容

- (1)解体業 許可番号：第 20123001327 号（千葉県知事）  
許可年月日：令和 3 年 7 月 14 日  
許可有効年月日：令和 8 年 4 月 17 日
- (2)破砕業 許可番号：第 20124001327 号（千葉県知事）  
許可年月日：令和 3 年 7 月 14 日  
許可有効年月日：令和 8 年 4 月 17 日
- (3)引取り業者登録番号：第 20121001327 号（千葉県知事）  
登録年月日：令和 3 年 4 月 18 日  
登録有効年月日：令和 8 年 4 月 17 日
- (4)フロン類回収業者登録番号：第 20122001327 号（千葉県知事）  
登録年月日：令和 3 年 4 月 18 日  
登録有効年月日：令和 8 年 4 月 17 日

2) 産業廃棄物収集運搬業 許可番号：第 01200221880 号（千葉県知事）

許可年月日：令和 3 年 5 月 21 日  
許可に有効年月日：令和 8 年 5 月 20 日

<産業廃棄物の種類>

- ・廃プラスチック類（自動車等破砕物を除く）
- ・木クズ
- ・金属クズ（自動車等破砕物を除く）
- ・ガラスクズ、コンクリートクズ及び陶磁器クズ（自動車等破砕物を除く）
- ・がれき類

※ 本年度の実績なし

(6) 環境管理責任者及びエコアクション21推進委員

環境管理責任者

① マツダオートザム鴨川 推進委員	総務	小原 好一	TEL:04-7093-1121
② マツダオートザム館山 推進委員	営業	末吉 亮	TEL:0470-24-0721
③ 重機土木事業部 推進委員	課長	佐野 仁昭	TEL:04-7093-1127
④ リサイクル事業部 推進委員	工場長	若菜 昭宏	TEL:04-7093-1315
⑤ タムラ石油事業部	所長	渡邊 雅仁	TEL:04-7093-4295

## 2. エコアクション21 対象範囲

当社が取り組むエコアクション21 環境活動は、当社の全組織・全活動・全従業員を対象としています。

### 対象事務所※

マツダオートザム鴨川・修理部、マツダオートザム館山、  
重機土木部・重機修理部・钣金塗装部、自動車リサイクル部、石油部  
株式会社タムラ

### 事業活動

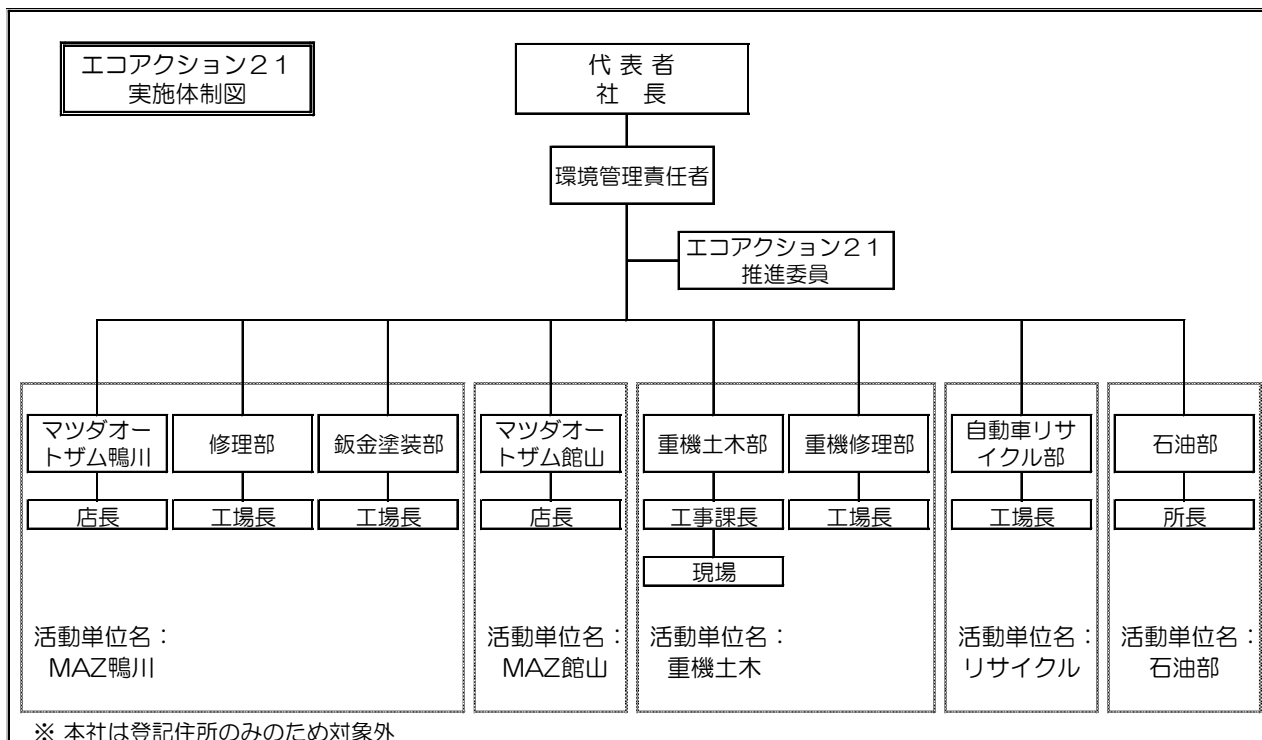
自動車車検整備、一般修理、自動車钣金塗装、新車・中古車販売、  
保険代理店業務、建設機械リース、建設機械点検修理、土木工事、  
自動車解体業及び自動車解体部品販売、石油類販売、レンタカー

※・・・本社（千葉県鴨川市滑谷777番地）は、登記住所の為対象外

※・・・産業廃棄物収集運搬は、実績が無い為対象外

### 3. エコアクション21 実施体制

(1) エコアクション21 実施体制図



(2) 役割・責任・権限

代表者（社長）	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営に関する統括責任</li> <li>環境経営システムの実施に必要な『人、設備、費用、時間、技能、技術者』を準備</li> <li>環境管理責任者を任命</li> <li>環境方針の策定・見直し及び全従業員への周知</li> <li>環境目標・環境活動計画書を承認</li> <li>代表者による全体の評価と見直しを実施</li> <li>環境活動レポートの承認</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営システムの構築、実施、管理</li> <li>環境関連法規等の取りまとめ表を承認</li> <li>環境活動の取組結果を代表者へ報告</li> <li>環境活動レポートの作成、公開</li> <li>環境活動の実績集計</li> <li>環境関連の外部コミュニケーションの窓口</li> </ul>
エコアクション21 推進委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施</li> <li>環境目標・環境活動計画書原案の作成</li> <li>環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施</li> <li>環境目標・環境活動計画書を確認</li> <li>環境活動レポートの確認</li> </ul>
部門長	<ul style="list-style-type: none"> <li>自部門における環境方針の周知</li> <li>自部門の従業員に対する環境訓練の実施</li> <li>自部門に関連する環境活動計画の計画、実施及び達成状況の報告</li> <li>特定された項目の手順書作成及び運用管理</li> <li>自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成 試行・訓練を実施、記録の作成</li> <li>自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚</li> <li>決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動への参加</li> </ul>



# 株式会社 タムラ 環境経営方針

株式会社タムラは、全従業員が日々の企業活動である自動車販売、点検修理、建設重機リース、土木工事、自動車リサイクル、石油類販売、レンタカー、損害保険代理店業務等を行う中で、次世代に豊かな地球環境を引き継ぐことを目指し、自然との調和を図りながら地球環境の保護と豊かな社会づくりに貢献します。

地球環境保全を経営の重要課題と捉え、環境経営システムを構築運営し、全従業員一丸となり積極的に環境への取り組みを継続的に推進します。

- 1 . 環境に関する法規制を遵守します。
- 2 . 限りある資源を大切にし、また二酸化炭素排出量の削減のため節電や車両使用時にはエコ運転に努めます。
- 3 . 循環型社会に向けて、廃棄物の削減・分別・再使用・再利用活動を推進します。
- 4 . 水の使用量を把握し、上下・地下水の節水・排水量の削減に努めます。
- 5 . 塗装や自動車整備に使用する化学物質の適正管理に努めます。
- 6 . 低燃費・排出ガス車やリサイクル部品、エコオイルなど環境に配慮した製品の提供を推進します。
- 7 . 工事現場にて、アイドリングストップに努めます。
- 8 . 使用済み自動車リサイクル台数の向上に努めます。
- 9 . 環境改善目標を定め、継続的な環境改善活動を実践します。
- 10 . 全従業員に、この「環境経営方針」を周知徹底するとともに、環境活動レポートを作成し公表します。

制定日：2013年9月30日  
改訂日：2020年10月1日

代表取締役社長

田村 清孝



## 5. 環境目標

### (1) 環境負荷の現状

(2021年10月~2022年9月)

項目	使用量	排出量
二酸化炭素排出量		507,549.3 kg-co2
電力	108,995.0 kWh	49,592.7 kg-co2
化石燃料	ガソリン	21,381.8 ㍓
	軽油	155,847.4 ㍓
	灯油	2,335.8 ㍓
	液化石油ガス (LPG)	164.4 kg
廃棄物総排出量		19.6 t
一般廃棄物排出量 (焼却)		3.3 t
産業廃棄物量 (再資源化)		16.3 t
水の排出量		2,284.4 m <sup>3</sup>
上水由来		1,018.0 m <sup>3</sup>
地下水由来		1,266.4 m <sup>3</sup>
化学物質使用量		244.0 kg
トルエン		138.0 kg
酢酸ブチル		60.8 kg
キシレン		32.3 kg
エチルベンゼン		12.9 kg

※産業廃棄物については、有価にて処理をしている為、現状実績のみ記載します。

※購入電力の排出係数については、国が公表する2018年度の東京電力エナジーパートナー株式会社の調整後排出係数 0.455 kg-CO<sub>2</sub>/kWh を使用する。

## (2) 環境目標 (全体)

項目		単位	基準年実績	目標		
				2020年度	2021年度	2022年度
二酸化炭素排出量		kg-CO <sub>2</sub>	566,267	560,604	554,942	549,279
		基準年比	(2019年度)	99%	98%	97%
電力		kWh	123,000	121,770	120,540	119,310
		基準年比	(2019年度)	99%	98%	97%
化石燃料	ガソリン	ℓ	23,310	23,077	22,844	22,611
		基準年比	(2019年度)	99%	98%	97%
	軽油	ℓ	174,605	172,859	171,113	169,367
		基準年比	(2019年度)	99%	98%	97%
	灯油	ℓ	2,306	2,283	2,260	2,237
		基準年比	(2019年度)	99%	98%	97%
廃棄物総排出量						
一般廃棄物量		kg	3,652	3,615	3,579	3,542
		基準年比	(2019年度)	99%	98%	97%
産業廃棄物量 (再資源化率の向上)		%	100	100%	100%	100%
		基準年比	(2019年度)	100%	100%	100%
水の排出量		m <sup>3</sup>	2,861	2,832	2,804	2,775
		基準年比	(2019年度)	99%	98%	97%
本業に係る環境配慮						
MAZ鴨川	化学物質使用量の管理	kg	280	-	-	-
		基準年比	(2019年度)	-	-	-
	低燃費・低排出ガス車登録比率向上	%	82	83%以上	84%以上	85%以上
		基準年比	(2019年度)	101%	102%	104%
MAZ館山	低燃費・低排出ガス車登録比率向上	%	86	87%以上	88%以上	89%以上
		基準年比	(2019年度)	101%	102%	103%
重機土木	建設機械の自主点検整備実施率の向上	%	100	100%	100%	100%
		基準年比	(2019年度)	維持	維持	維持
リサイクル	解体のための入庫台数の増加促進	台	909	918	927	936
		基準年比	(2019年度)	101%	102%	103%
石油部	スタンドヤードのゴミ分別の実施率向上	%	100	100%	100%	100%
		基準年比	(2019年度)	維持	維持	維持
軽油原単位管理						
重機土木	【車両】走行距離による燃費測定	km/ℓ	1,345	1,358	1,372	1,385
		基準年比	(2019年度)	101%	102%	103%
	【重機】稼働時間による燃費測定	hr/ℓ	0,113	0,114	0,115	0,116
		基準年比	(2019年度)	101%	102%	103%
リサイクル	入庫台数及び解体車両台数による燃費	台数/kℓ	109.9	111.0	112.1	113.2
		基準年比	(2019年度)	101%	102%	103%
	【車両】走行距離による燃費測定	km/kℓ	12,546	12,672	12,797	12,923
		基準年比	(2019年度)	101%	102%	103%
【重機】稼働時間による燃費測定	hr/kℓ	48.4	48.9	49.4	49.9	
	基準年比	(2019年度)	101%	102%	103%	
水原単位管理						
石油部	洗車機使用回数による水使用量	回数/m <sup>3</sup>	2.04	2.06	2.08	2.10
		基準年比	(2019年度)	101%	102%	103%

※化学物質の排出量、移動量は適切に管理していることを、定期的に確認する。

※購入電力の排出係数については、国が公表する2018年度の東京電力エナジーパートナー株式会社の調整後排出係数 0.455 kg-CO<sub>2</sub>/kWh を使用する。



## 6.環境活動計画

項 目		活動手段及び方法
二酸化炭素排出量の削減		
電力使用量の削減	MAZ鴨川	・空調温度を適切な温度設定にする。
		・照明、パソコン等の機器類の電源管理をする。
	MAZ館山	・空調フィルターの定期清掃をする。
		・店舗照明のゾーン、時間帯管理
	重機土木	・エアコン温度設定の徹底
		・不要な電気のスイッチは切る。
	リサイクル	・パソコンの電源管理
		・コンプレッサーの電源管理
	石油部	・パソコン、コピー機等のOA機器を省電力設定にする。
		・夏季における軽装、冬季における重ね着の工夫。
化石燃料の削減	MAZ鴨川	・空気圧縮機の圧力。
		・事務室、工事等の照明、不使用時の消灯。
	MAZ館山	・店舗照明の時間帯管理
		・エアコン温度の設定 夏季28℃より
	重機土木	・必要以上の電源を切る
		・アイドリングストップの実施
	リサイクル	・エコドライブの徹底（法定速度の遵守及び空ぶかしの禁止）
		・社用時エコドライブ実施
	石油部	・代車使用(お客様)時の依頼（エコドライブ、 返却時満タン返し）
		・現場移動時のエコ運転
廃棄物総排出量		
一般廃棄物量	MAZ鴨川	・揚重作業中のアクセルワークの注意
		・アイドリングストップ等エコドライブの工夫
	MAZ館山	・使用済み車引取時の効率的ルート選択と段取り
		・社用時のエコドライブ実施
	重機土木	・配達時、給油以外はエンジンを切る。
		・紙類（機密文書・個人情報等）の適正処理の徹底。
	リサイクル	・紙の使用量の抑制
		・書類の簡素化・ペーパーレス化の推進
	石油部	・裏紙使用・両面印刷・両面コピーの推進
		・紙類の再利用（裏紙の使用／段ボールの再利用）
産業廃棄物量（再資源化率の向上）	・一般ゴミの分別、圧縮廃棄	
	・事務処理のペーパーレス推進	
水の排出量	全事業所	・紙類の再利用（裏紙の使用／段ボールの再利用）
		・一般ゴミの分別、圧縮廃棄
		・事務処理のペーパーレス推進
産業廃棄物量（再資源化率の向上）		
水の排出量	全事業所	・産業廃棄物（廃油等）を中間処理業者へ売却し産業廃棄物の再資源化に努める。
		・地下水の使用量を把握する。
		・手元ノズル等を使用しこまめに節水する。
「節水ステッカー」を表示し注意を促す。		

本業に係る環境配慮			
MAZ鴨川 MAZ館山	化学物質使用量の管理		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 環境に優しい塗料の切り替え検討。</li> <li>• データ把握。</li> </ul>
	低燃費・低排出ガス車登録比率向上		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 低燃費、低排出ガス車の販売増に努める。 (SKYACTIV、アイドリングストップ車の販売比率を高める。)</li> <li>• 環境配慮型自動車保険の提案に努める。</li> </ul>
重機土木	建設機械の自主点検整備実施率の向上		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 計画的に建設機械の自主点検を実施する。</li> <li>• 日常点検の実施。</li> </ul>
リサイクル	解体のための入庫台数の増加促進		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 1台でも多くの解体車両を増加させるための営業に努める。</li> </ul>
石油部	スタンダードのゴミ分別の実施率向上		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 徹底したゴミ分別の実施。</li> </ul>
軽油使用量削減（軽油原単位管理）			
重機土木	【車両】 走行距離による燃費測定		<ul style="list-style-type: none"> <li>• ラフタークレーン及び運搬工事車両等の走行距離による燃費を把握し、エコドライブの徹底に努める。</li> </ul>
	【重機】 稼働時間による燃費測定		<ul style="list-style-type: none"> <li>• ラフタークレーン及び建設機械等の稼働時間による燃費を把握し、優しいアクセルワークに努める。</li> </ul>
リサイクル	入庫台数及び解体車両台数による燃費		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 効率のよい車両引取ルート選定により燃費向上に努める。</li> </ul>
	【車両】 走行距離による燃費測定		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 積載車（解体車両運搬車）の走行距離による燃費を把握し、エコドライブの徹底に努める。</li> </ul>
	【重機】 稼働時間による燃費測定		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 解体用重機等の稼働時間による燃費を把握し、優しいアクセルワークに努める。</li> </ul>
水使用量削減（水原単位管理）			
石油部	洗車機使用回数による水使用量		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 水使用量を洗車機使用回数により適正な管理を行い節水に努める。</li> </ul>

※各事業部から発生する産業廃棄物のうち廃油・廃LLCは車両の点検整備結果として発生するため、削減目標と計画の策定は行わず適正保管と適正処理業者へ排出する。

※お客さま車両の洗車等に使用する地下水の使用量削減については、2013年11月設置の水量計で現状を把握する。

※一般廃棄物の排出量については、2014年8月から秤を使用して現状を把握する。

※再生可能エネルギーの太陽光発電をMAZ館山に設置し、東京電力に売電している。

※低燃費・低排出ガス車登録比率は、車両販売数に対するアイドリングストップ・SKYACTIV搭載車の比率をいう。

## 7. 環境活動計画の取組結果とその評価

◀ 取組結果 ▶ (2021年10月～2022年9月)

集計単位		二酸化炭素 排出量 kg-CO2	電力 kWh	ガソリン ℓ	軽油 ℓ	灯油 ℓ	水の 使用量 m <sup>3</sup>	廃棄物排出量	
								一般 kg	産廃再資源化 %
全体	基準	566,267	123,000	23,310	174,605	2,306	2,861	3,652	100%
	目標	554,942	120,540	22,844	171,113	2,260	2,804	3,579	100%
	実績	507,101	108,995	21,382	155,847	2,336	2,284	3,262	100%
	増減率	91%	90%	94%	91%	103%	81%	91%	100%
	評価	○	○	○	○	×	○	○	○
M A Z 鴨 川	基準	50,274	47,183	7,273	3,162	1,516	548	1,374	
	目標	49,269	46,239	7,128	3,099	1,486	537	1,347	
	実績	49,907	41,050	7,792	3,590	1,562	511	1,029	
	増減率	101%	89%	109%	116%	105%	95%	76%	
	評価	×	○	×	×	×	○	○	
M A Z 館 山	基準	17,288	18,661	2,455	1,037	171	661	603	
	目標	16,942	18,288	2,406	1,016	168	648	591	
	実績	13,225	19,722	947	587	216	627	566	
	増減率	78%	108%	39%	58%	129%	97%	96%	
	評価	○	×	○	○	×	○	○	
重 機 土 木	基準	441,045	31,847	12,509	154,083	0	464	1,482	
	目標	432,224	31,210	12,259	151,001	0	455	1,452	
	実績	400,007	25,655	11,616	140,072	0	381	1,517	
	増減率	93%	82%	95%	93%	-	84%	104%	
	評価	○	○	○	○	-	○	×	
リ サ イ ク ル	基準	45,791	7,860	0	16,289	76	69	35	
	目標	44,875	7,703	0	15,963	74	68	34	
	実績	33,340	6,415	222	11,539	55	91	17	
	増減率	74%	83%	-	72%	74%	134%	49%	
	評価	○	○	-	○	○	×	○	
石 油 部	基準	11,868	17,449	1,073	34	543	1,120	158	
	目標	11,631	17,100	1,052	33	532	1,097	155	
	実績	10,622	16,153	805	59	503	674	134	
	増減率	91%	94%	77%	179%	94%	61%	86%	
	評価	○	○	○	×	○	○	○	

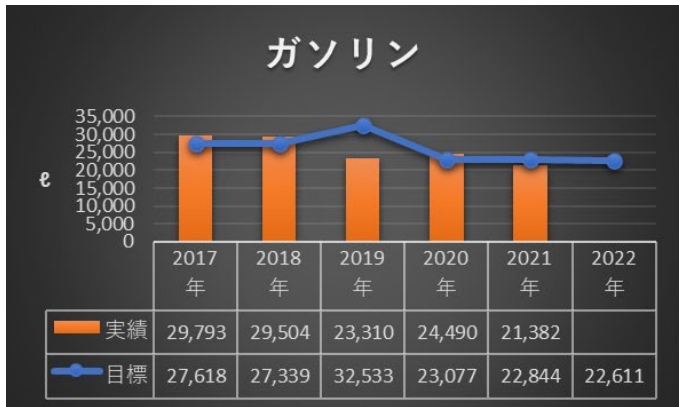
会社全体での実績／判定

### (1) 全体（組織全体）

エコアクション21を取り組んでから、本年度で9年目の環境活動となりました。

昨年度は、化石燃料（ガソリン・灯油）が目標未達成となった事から、今年度は更にエコドライブ・アイドリングストップを徹底しおこなってきました。その結果、化石燃料（ガソリン）に関しては、目標達成となり良かったと感じております。しかし、化石燃料（灯油）に関しては、以前として目標クリアとはならない形である。やはり、钣金工場での仕事量の増加が要因となっており難しい状況であると考えられる。また、今回から上記にて過去5年間のグラフ化により透明化され、より管理集計した情報がわかるようになり、社員への情報共有にも役立てられ、今後の削減意識に繋がると思っております。来年度も、組織全体として各項目が目標達成できるよう削減に努めていきたいと思っております。

◆ 組織全体の取組結果推移



(2) MAZ 鴨川

昨年度同様、化石燃料（ガソリン・軽油・灯油）の増加に伴い、二酸化炭素の排出量も比例するように増加しており、目標未達成となりました。要因としては、引取納車による代車使用量の増加及びロードサービスによる増加と考えられます。また、灯油については電力使用量（エアコン等）の削減した事により反比例するように上昇している。

来年度の取り組みとして、社員一同のエコドライブ及び室内での温度調整をおこないながら、現状の取り組みを推進し環境活動を活発にしていこう。

(3) MAZ 館山

今年度に関して、昨年度と同じく電力及び化石燃料（灯油）が増加傾向であり、目標未達成となりました。要因としては、コロナウイルス対策による室内及びフロアの換気により、電力及び灯油使用量の増加が明白である。他の項目に関しては、目標達成となりました。

今後の取り組みとして、社員一同室内及びフロアでの温度調整（エアコン等）の徹底をおこないながら、コロナウイルス対策も含め、各項目の削減活動に努めていく。

(4) 重機・土木部

今年度は、目標達成できたと思います。社員一同に感謝しております。但し、併設してある钣金工場での「一般廃棄物」に関しては、仕事量増加に伴い目標未達成となりました。

今後の取り組みとして、ゴミの分別をしっかりとこない、できる限り一般廃棄物の量を削減できるよう徹底をしていく。また、ウクライナ情勢により全ての価格高騰が考えられますので、遠方作業等に関して「エコ運転、丁寧なアクセルワーク」を心掛けるよう社員へ徹底し、削減に努めて参りたいと思います。

(5) リサイクル部

今年度は、全体的には目標達成できたと思います。皆さんご苦労様でした。

但し、水使用量に関しては、漏水があったことが原因と考えられ目標未達成となりました。建物自体も年々、経年劣化していきますので必要であれば早急に修繕するようにする。

今後の取り組みとして、引続き解体作業等の入庫台数の増加促進、「エコ運転・丁寧なアクセルワーク」を心掛けるよう更なる削減を社員一同徹底していききたいと思います。

(6) 石油部

今年度は、ほぼ目標達成となりました。但し、軽油に関しては、灯油輸送車による配達の増加が未達成の要因となりました。また、水使用量に関して、地下水汲み上げポンプの故障により、水量が少なくなっていた。

来年度に関して、地下水汲み上げポンプの正常化により水使用量の通常化、灯油輸送車での、エコドライブ及び最短ルート検索等をおこない、社員一同引き続き各種削減に取り組んでいききたいと思います。

《本業に係る環境配慮》

集計単位	本業に係る環境配慮	単位	基準年実績	年度目標	実績	評価
MAZ鴨川	化学物質使用量の管理	kg	280	データ把握	244	○
		基準年比		-	-	
MAZ館山	低燃費・排出ガス車登録比率の向上	%	82%	84%	80%	×
		基準年比		102%	95%	
重機土木	建設機械の自主点検整備の実施率向上	%	100%	100%	100%	○
		基準年比		100%	100%	
リサイクル	解体のための入庫台数の増加促進	台	909	927	366	×
		基準年比		102%	39%	
石油部	スタンダードのゴミ分別の実績率向上	%	100%	100%	100%	○
		基準年比		100%	100%	

(1) MAZ 鴨川

昨年度より「化学物質使用量の管理」に関して、基準年度実績を基にデータ把握をおこなっており、引き続き状況を確認しております。また、「低燃費・排出ガス車両」に関しては、ウクライナ情勢により、部品の供給遅延及び新規車両の遅延等もあり、かなり厳しい状況となり未達成となりました。

今後に関して、ウクライナ情勢の状況をみながら、できる限り「低燃費・排出ガス車両」販売促進に努めていききたいと思います。

(2) MAZ 館山

今年度に関しては、昨年度に比べ販売台数が減少となっており、その為目標も未達成との結果になっております。ウクライナ情勢の影響もあり、かなり厳しい状況でした。

今後に関して、ウクライナ情勢及び部品等の状況をみながら、引き続き低燃費車両の販売促進に繋げていきたいと思っております。

(3) 重機・土木部

今年度に関して、建設機械の自主点検整備は目標達成となりました。

今後の取り組みとして、新規車両の検討も含め、引き続き自主点検整備をおこなって参りたいと思っております。

(4) リサイクル部

今年度に関しては、昨年度と比較するとかなりの引取台数の減少となっており目標未達成となりました。コロナウイルス及びウクライナ情勢により、新車の需要と供給のバランスが不安定となり、廃車台数も比例するように減少となっている状況でした。工場長も営業活動をおこなっておりますが、どこも廃車が無い状況であり、とても営業活動が厳しい状態です。来年度も、コロナウイルス及びウクライナ情勢の影響も踏まえ、引き続き在庫台数を増やす為、工場長だけではなく社員全員で営業活動をおこなっていききたいと思っております。

(5) 石油部

今年度に関して、スタンドヤードのゴミ分別は目標達成となりました。来年度も、引き続きゴミの分別の徹底を社員全員でおこなっていききたいと思っております。

《軽油原単位管理》

集計単位	軽油原単位管理	単位	基準年実績	年度目標	実績	評価
重機土木	【車両】走行距離による燃費測定	km/ℓ	1,345	1,372	1,179	×
		基準年比		102%	88%	
重機土木	【重機】稼働時間による燃費測定	hr/ℓ	0.113	0.115	0.131	○
		基準年比		102%	116%	
リサイクル	在庫台数及び解体車両台数による燃費	台数/kℓ	109.9	112.1	71.4	×
		基準年比		102%	65%	
	【車両】走行距離による燃費測定	km/kℓ	12,546	12,797	15,781	○
		基準年比		102%	126%	
【重機】稼働時間による燃費測定	hr/kℓ	48.4	49.4	58.1	○	
	基準年比		102%	120%		

(1) 重機・土木部

今年度は、「車両」走行距離が目標未達成となりました。遠方の現場が多いことが考えられます。「重機」稼働時間による燃費測定による燃費測定に関しては目標達成となりました。これからも、エコドライブ・アイドリングストップ・作業中のアクセルワークを徹底し、来年度も引き続き、目標達成できるよう努めていきたいと思っております。

(2) リサイクル部

今年度は、在庫台数及び解体車両台数による燃費に関して、目標未達成となりました。要因としては、解体車両の経年劣化による燃費の増加が考えられます。在庫台数が減少しているのにも関わらず燃費の増加を踏まえ、新規車両の検討をおこなっております。「車両」走行距離及び「重機」稼働時間による燃費測定に関しては、目標達成となりました。日々アイドリングストップを心掛けていることによる結果と考えております。

来年度に関しては、新規車両の見直しを検討しながら、引き続き燃費の削減に心掛けていききたいと思っております。

《水原単位管理》

集計単位	水原単位管理	単位	基準年実績	年度目標	実績	評価
石油部	洗車機使用回数による水使用量	回数/km <sup>3</sup>	2.04	2.09	4.76	○
		基準年比		101%	233%	

(1) 石油部

今年度に関して、洗車機使用回数が昨年度と比較すると約 2 倍に増加している。それに対し水使用量が増加していない事が異常であった。原因として、地下水の汲み上げポンプの故障により、水量が出ず水使用量が減少した。

来年度に関しては、ポンプの正常化により洗車機使用回数の増加と共に水の使用量も増加すると考えられます。



## 8. 次年度の取組

更なる環境負荷の削減を目指し、以下の取組みを重点的に行う。

- ・エコ運転、丁寧なアクセルワークの徹底（自動車燃料の削減）
- ・節水の徹底（漏水調査及び修繕）

### ◀ 次年度環境目標 ▶

項目		単位	基準年実績	目標		
				2020年度	2021年度	2022年度
二酸化炭素排出量		kg-CO <sub>2</sub>	566,267	560,604	554,942	549,279
		基準年比	(2019年度)	99%	98%	97%
電力		kWh	123,000	121,770	120,540	119,310
		基準年比	(2019年度)	99%	98%	97%
化石燃料	ガソリン	ℓ	23,310	23,077	22,844	22,611
		基準年比	(2019年度)	99%	98%	97%
	軽油	ℓ	174,605	172,859	171,113	169,367
		基準年比	(2019年度)	99%	98%	97%
	灯油	ℓ	2,306	2,283	2,260	2,237
		基準年比	(2019年度)	99%	98%	97%
廃棄物総排出量						
一般廃棄物量		kg	3,652	3,615	3,579	3,542
		基準年比	(2019年度)	99%	98%	97%
産業廃棄物量（再資源化率の向上）		%	100	100%	100%	100%
		基準年比	(2019年度)	100%	100%	100%
水の排出量		m <sup>3</sup>	2,861	2,832	2,804	2,775
		基準年比	(2019年度)	99%	98%	97%
本業に係る環境配慮						
MAZ鴨川	化学物質使用量の管理	kg	280	-	-	-
		基準年比	(2019年度)	-	-	-
MAZ館山	低燃費・低排出ガス車登録比率向上	%	82	83%以上	84%以上	85%以上
		基準年比	(2019年度)	101%	102%	104%
重機土木	建設機械の自主点検整備実施率の向上	%	86	87%以上	88%以上	89%以上
		基準年比	(2019年度)	101%	102%	103%
リサイクル	解体のための入庫台数の増加促進	台	100	100%	100%	100%
		基準年比	(2019年度)	維持	維持	維持
石油部	スタンドヤードのゴミ分別の実施率向上	%	909	918	927	936
		基準年比	(2019年度)	101%	102%	103%
軽油原単位管理						
重機土木	【車両】走行距離による燃費測定	km/ℓ	1,345	1,358	1,372	1,385
		基準年比	(2019年度)	101%	102%	103%
リサイクル	【重機】稼働時間による燃費測定	hr/ℓ	0,113	0,114	0,115	0,116
		基準年比	(2019年度)	101%	102%	103%
リサイクル	入庫台数及び解体車両台数による燃費	台数/kℓ	109,9	111,0	112,1	113,2
		基準年比	(2019年度)	101%	102%	103%
	【車両】走行距離による燃費測定	km/kℓ	12,546	12,672	12,797	12,923
		基準年比	(2019年度)	101%	102%	103%
【重機】稼働時間による燃費測定	hr/kℓ	48,4	48,9	49,4	49,9	
	基準年比	(2019年度)	101%	102%	103%	
水原単位管理						
石油部	洗車機使用回数による水使用量	回数/m <sup>3</sup>	2,04	2,06	2,08	2,10
		基準年比	(2019年度)	101%	102%	103%

※購入電力の排出係数については、国が公表する2018年度の東京電力エナジーパートナー株式会社の調整後排出係数 0.455 kg-CO<sub>2</sub>/kWh を使用する。（環境省・経済産業省公表 R2.9.15）

## 9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反訴訟の有無

### (1) 環境関連法規等の遵守状況の評価

法規制等の名称	主な要求事項	担当部署	評価
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (廃棄物処理法)	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般廃棄物収集業者の許可証確認</li> <li>産廃収集運搬・処理業者との契約、許可証確認</li> <li>マニフェストの交付、管理</li> <li>産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出</li> <li>自社による運搬時の表示、書類携行</li> </ul>	全事業場	○
使用済み自動車の再資源化等に関する法律 (自動車リサイクル法)	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用済み自動車の引取・フロン類回収・解体・破砕業者登録及び許可/登録/更新</li> </ul>	リサイクル部	○
	<ul style="list-style-type: none"> <li>再資源化預託金(自動車リサイクル料金)の預託有無の確認と、預託金の徴収</li> </ul>	MAZ鴨川 MAZ館山 リサイクル部	○
	<ul style="list-style-type: none"> <li>各工程移動時、移動報告の実施(電子マニフェストの管理)</li> </ul>	リサイクル部	○
道路運送車両法	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路運送車両の保安基準</li> <li>道路運送車両の点検及び整備</li> <li>道路運送車両の検査等</li> </ul>	MAZ鴨川 MAZ館山 重機土木部	○
自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量削減等に関する特別措置法 (自動車NOx・PM法)	<ul style="list-style-type: none"> <li>規制対象地域内の適合車による運行</li> <li>規制対象特定地域への対象車両通行禁止</li> <li>対象自動車を使用する事業者による計画の作成、定期の報告</li> <li>周辺地域内自動車を使用する事業者による計画の作成、定期の報告</li> </ul>	全事業場	○
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律 (PRTR法)	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1種指定化学物質の排出量、移動量の記録</li> <li>年間総排出量、移動量が1,000kg以上あれば報告</li> </ul>	MAZ鴨川 MAZ館山 重機土木部	○
浄化槽法	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共用水域等の水質保全等の観点から、浄化槽の設置、保守点検、清掃を行う。</li> </ul>	全事業場	○
騒音規制法	<ul style="list-style-type: none"> <li>敷地境界での騒音レベルの遵守</li> </ul>	リサイクル部	○
振動規制法	<ul style="list-style-type: none"> <li>敷地境界での振動レベルの遵守</li> </ul>	リサイクル部	○
水質汚濁防止法	<ul style="list-style-type: none"> <li>排水濃度の測定・記録</li> <li>事故時の措置届出</li> </ul>	全事業場	○
大気汚染防止法	<ul style="list-style-type: none"> <li>低排出ガス車の運用と販売</li> </ul>	全事業場	○
特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律 (オフロード法)	<ul style="list-style-type: none"> <li>基準適合特定特殊自動車使用</li> </ul>	重機土木部 リサイクル部	○
特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律 (フロン回収破壊法)	<ul style="list-style-type: none"> <li>第二種特種製品からのフロン類回収引取、回収業の登録/更新</li> <li>回収設備機器の保全</li> <li>回収実績記録の報告</li> <li>回収フロン類の破壊業者への引き渡し</li> </ul>	リサイクル部	○
消防法	<ul style="list-style-type: none"> <li>危険物保管の指定数量以上の許可申請</li> <li>危険物保管の指定数量以上の危険物取扱者の届出</li> </ul>	全事業場	○

### (2) 違反・訴訟の有無

過去3年間以上、環境関連法規等の違反はなく、訴訟および関係機関からの指摘も受けていない。

## 10. 代表者による評価・見直し

### 《 環境活動の評価 》

2021年度に関して、2019年度の実績結果を基準値とした中間実績評価となります。

また、今回より過去5年間の「組織全体の取組結果推移」をグラフ化する事により全体の把握が透明化された。その内容については下記に記載致します。

- ・電力使用量については、各事業所にて削減に取り組んでいるが、MAZ 館山のみ電力が増加した。やはり、コロナ感染対策の為に換気を多くおこなっている事が要因と考えられる。
- ・化石燃料については、各事業所の仕事量の増減により大きく変動している。特に、MAZ 鴨川に関しては、引取納車及びロードサービスの増加等により目標未達成となった。
- ・水の使用量については、リサイクル事業のみ未達成となっている。その要因としては、漏水があったことである。各事業所にて経年劣化による漏水等が起こりえる可能性がある為、随時確認し対応していきたい。
- ・一般廃棄物については、各事業所にて削減に取り組んでいるが、重機土木事業での钣金工場での仕事量の増加により目標未達成となった。

上記に関し、グラフを見る限り全ての項目は目標に対し、実績は横ばい状態である事がわかる。

また、今年度に関しては目標値に対する削減はほぼ達成できたと感じております。特に評価する点として「電力」に関する事です。コロナ渦の中、各事業所での換気をおこないながらの冷暖房の使用量等節電は、目標値に対し大幅に下回る電力使用量の削減を達成できた事は社員一同に感謝しております。

### 《 今後の対応 》

今後の対応と致しまして、ウクライナ情勢等による電力及び化石燃料等の価格高騰がおきています。その煽りによる経営の圧迫が考えられます。その為、各項目の削減は重要不可欠である。

来年度も、できる限り環境負荷の削減に努め、これからも環境活動及び社会貢献に取り組んでいたいと思います。



## 11. 環境保全活動のご紹介

### 《 緑のカーテン 》

夏場、「緑のカーテン」を設置し西日による室温上昇を抑えて、空調による電気使用量を抑制。

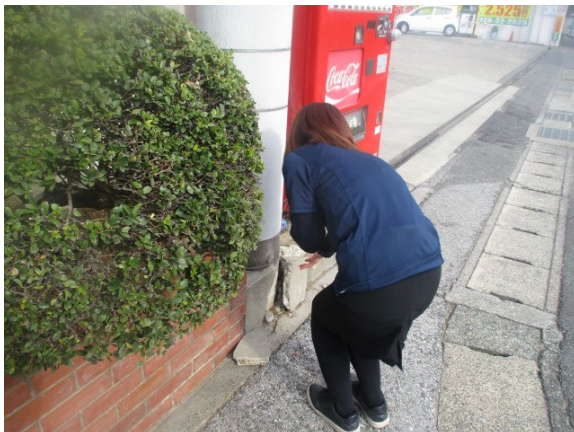
リサイクル部



### 《 清掃活動 》

会社周辺の清掃活動（地域のゴミゼロ運動に協力参加）に全部署で参加しています。

重機部・石油部





マツダオートザム鴨川・館山店

